

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	奈良工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部等 共通 科目	専門 科目	合計		
	機械工学科			4	10	14	7	
	電気工学科			4	14	18	7	
	電子制御工学科			2	6	8	7	
	情報工学科			4	11	15	7	
	物質化学工学科			2	10	12	7	
	システム創成工学専攻			6	14	20	7	
	物質創成工学専攻			6	6	12	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

Web シラバス上で公開 https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=28&lang=ja

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	奈良工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.kosen-k.go.jp/about/release/index.html#yakuinmeibo

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	平成28年4月1日～ 令和6年3月31日	理事長
常勤	東京工業大学 理事・副学長	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日	研究・産学連携 情報システム
非常勤	東京大学教授	平成26年4月1日～ 令和2年3月31日	男女共同参画推進
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	奈良工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画(シラバス)は教育指導及び点検評価活動の一環として、すべての授業科目についてWebシラバスシステムを用いて作成し、高専機構モデルコアカリキュラムに適合した内容としている。</p> <p>記入内容は下記6項目とし、当該年度当初には閲覧できるようにしている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書 2. 到達目標 定期試験ごとの達成目標を具体的に記入 3. 評価(ルーブリック) それぞれの「到達目標」に対する「理想的な到達レベル(優)」、「標準的な到達レベル(良)」、「未到達レベル(不可)」の目安を記入 4. 教育方法等 学生が授業内容に興味を持てる工夫、授業のスタイルや特徴、関連科目や学生の視点に立って留意すべき点を記入 4年生以上の科目においては「自己学習」として、授業時間外に行うべき学習内容等も記入。履修条件のある科目等も明示。 5. 授業計画 定期試験を含め週ごとの授業内容・方法および到達目標を記入 6. 評価割合 評価項目ごとの評価割合を数値で記入 なおシラバスは、1月に作成依頼、3月に教務委員会及び専攻科委員会において策定し、4月授業開始前に公表する。 	
授業計画の公表方法	https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=28&department_id=21&year=2019&lang=ja

<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>授業計画(シラバス)には、評価項目を具体的かつ詳細に明示しており、各評価項目には評価に占める割合を数値(%)で記入した後、学生が定期試験や小テストなどの素点またはレポート提出状況等からおおよその成績を把握でき、かつ、学生が理解しやすいように具体的(授業での取り組み・積極性(発言の有無や回数)など)に呈示している。</p> <p>最終成績の算出法および算出根拠となるデータを取める成績根拠資料を保管し、成績評価の項目ごとの数値割合に誤謬がなく成績一覧表との一貫性を徹底している。</p> <p>成績一覧表では、授業計画(シラバス)に示した評価割合に基づく最終成績の算出式および根拠となる項目ごとの素点を明示している。</p> <p>各科目の成績は、本科については『奈良工業高等専門学校学業成績評価、進級及び卒業の認定に関する規則』第6条に定めるとおり原則として100点法によって評価し、教務委員会、運営会議、教職員会議にて承認を受けている。</p>
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>各科目の成績は、本科については『奈良工業高等専門学校学業成績評価、進級及び卒業の認定に関する規則』第6条に定めるとおり、原則として100点法によって評価し、次の標語によって評定している。</p> <p>「優」: 100～80点 「良」: 79～65点 「可」: 64～60点 「不可」: 59～0</p> <p>なお、「不可」については、さらに「不可(A)」(59～40点)、「不可(B)」(39～0点)の区分を設けて取り扱っている。</p> <p>進級及び卒業の認定においては、『奈良工業高等専門学校学業成績評価、進級及び卒業の認定に関する規則』第10条に定める認定資料として、全科目の100点法による成績やその総平均点に基づくクラス内での席次等を記載した成績一覧表をクラスごとに作成し、教職員間で共有している。なお、成績一覧表は学年末だけでなく、前期中間・前期末・後期中間時点でも作成しており、年度途中の成績の状況等も教員間で共有している。</p> <p>専攻科については、『奈良工業高等専門学校専攻科履修規程』第7条に定めるとおり、本科と同様に次の標語によって評定している。</p> <p>「優」: 100～80点 「良」: 79～65点 「可」: 64～60点 「不可」: 59～0</p>
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>ホームページにて公表</p> <p>https://www.nara-k.ac.jp/guide/07-01-narakosen-gakugyou20180401.pdf</p> <p>https://www.nara-k.ac.jp/guide/07-38-nara-kosen-senkouka-risyu-kitei.pdf</p> <p>https://www.nara-k.ac.jp/education/2019/04/2019.html</p>

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本科においては、ディプロマポリシー、学則第 12 条及び昭和 46 年度に制定された『学業成績評価、進級及び卒業の認定に関する規則』を公表、『学業成績評価、進級及び卒業の認定に関する申合せ事項』を制定し、順次状況にあった改訂を加えている。</p> <p>次に該当する者は、原則として進級又は卒業を認めない。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 不合格の科目がある者 (2) 学年成績の総平均点が 60 点未満の者 (3) 欠席日数が年間授業日数の 3 分の 1 を超える者 (4) 特別教育活動の履習状況が著しく悪い者 <p>ただし、不合格科目の全てが不可 (A) (59～40 点) であり、かつ、その累積が 5 科目 10 単位以内である場合、本科第 4 学年にあっては進級を認め、第 5 学年にあっては卒業を追認するための再試験の実施を認めることができる。</p> <p>また、申合せ事項において各科目で設定された到達目標について、未到達レベル (不可) の学生が履修学生の 2 割未満となるように授業を設計・計画し、適切な課題や試験などを課すことを定めている。また、必要に応じて補講や学力補充試験を実施するなど、履修学生の到達レベルを向上させるための方策を講ずることに努めるよう定めている。</p> <p>専攻科においては、学則第 37、38 条及び『奈良工業高等専門学校専攻科履修規程』を公表し、修了認定の条件を定めている。</p> <p>専攻科に 2 年以上在学し所定の授業科目を履修し、62 単位以上を修得することとし教養専門基礎科目修得単位数 計 20 単位以上、専門科目修得単位数 計 42 単位以上 としている。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>ホームページにて公表</p> <p>https://www.nara-k.ac.jp/guide/07-01-narakosen-gakugyou20180401.pdf</p> <p>https://www.nara-k.ac.jp/guide/07-38-nara-kosen-senkouka-risyu-kitei.pdf</p> <p>https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/</p>	

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	奈良工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoH29.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoH29.pdf
財産目録	
事業報告書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/H29jigyo-hokokusho1.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/kanjiike-nH30.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:平成31年度(2019年度))
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/nendo-h31.pdf
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:平成31年(2019年)4月1日から令和6年(2024年)3月31日まで)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/chuukikeikaku-4th.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:「自己点検・評価報告書」として刊行し公表。各関係官公庁に送付している。
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.nara-k.ac.jp/guide/ninsyohyoka/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 機械工学科
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ） https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/
（概要） （1）社会（伝統・文化・環境等）の発展に貢献できる、豊かな人間性を備えた技術者の育成 （2）幅広い工学的知識を基礎に、実践能力を備えた技術者の育成 （3）コミュニケーション能力を備えた国際的に活躍できる技術者の育成 （4）自主的・継続的に学習し、課題解決能力を備えた技術者の育成
卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ） https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/
（概要） 機械工学科では、国内外を問わず、機械系技術者として産業界ならびに社会に貢献できる人材を育成することを目的として、所定の単位を修得し、以下のような能力を身につけた学生に卒業を認定する。 （1）機械系技術者としての専門基礎知識を身につけ、産業界及び社会における設計開発、生産技術、生産管理などの業務にてその知識を発揮し、状況に応じて応用することができる。 （2）課題発見および課題解決能力を有し、幅広い知識を融合させて新たな課題にチャレンジすることができる。 （3）豊かな人間性とコミュニケーション能力を身につけ、社会規範を遵守し、責任ある行動を取ることができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ） https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/
（概要） 機械工学科では、産業界および社会の発展に貢献できる機械系技術者育成を教育目標とし、「ディプロマポリシー」にて掲げた能力を育成する。具体的には、教育目標に沿って以下のように教育課程を編成する。 （1）低学年では、機械工学における「ものづくり」の基礎が身につくように実技系科目（製図、実習）を中心に配置します。学年進行と同時に基礎学力（数学、物理）を充実させ、専門基礎科目（材料系、力学系、計測制御系）を段階的に増やして、基礎から応用まで幅広く知識が習得できるように授業科目を編成する。 （2）課題発見および課題解決能力を育成するため、設計製作、演習、実験、卒業研究を系統的に配置します。また、機械工学をベースに複合技術（電気電子系、情報系）に関する知識を身に付け、創造力を育む授業科目を編成する。 （3）グループワーク（実験、実習、演習）などを通してコミュニケーション能力を充実させ、他者を尊重し、公共心を身につけるような授業科目を編成する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ） https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/
（概要） 幅広い工学的知識・技術を身につけ、豊かな人間性を備えた技術者の養成を行うことを使命とする。産業のグローバル化に対応して、国際的視野や国際コミュニケーション力をもち、課題を発見し解決できる創造的技術者の育成を目指す。

このような方針に基づき、次のような人の入学を期待する。

- (1) 技術者や理工系の研究者になるという強い意志を持ち、社会の発展に貢献したい人
- (2) 工学を学ぶために必要な基礎学力を持ち、自ら進んで学習できる人
- (3) 科学技術の分野に関心を持ち、自ら工夫して新しいものを創造する意欲のある人
- (4) 倫理観や協調性を持ち、多様な個性や価値観を尊重できる人

学部等名 電気工学科

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ）

<https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/>

（概要）

- (1) 社会（伝統・文化・環境等）の発展に貢献できる、豊かな人間性を備えた技術者の育成
- (2) 幅広い工学的知識を基礎に、実践能力を備えた技術者の育成
- (3) コミュニケーション能力を備えた国際的に活躍できる技術者の育成
- (4) 自主的・継続的に学習し、課題解決能力を備えた技術者の育成

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ）

<https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/>

（概要）

電気工学科では、所定の単位を修得して以下のような能力を身につけた学生に卒業を認定する。

- (1) 電気・電子工学に関する幅広い知識を持ち、あらゆる産業分野で活躍できる。
- (2) 電気・電子技術を使って環境問題の解決に取り組むことができる。
- (3) コミュニケーション能力や論理的思考能力、主体性や自己管理能力、問題解決能力の基礎を身につけ、他人と協調しながら社会の中で活躍できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ）

<https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/>

（概要）

電気工学科では、「あらゆる産業分野で活躍できる幅広い知識を持った電気・電子技術者の育成」を目標に教育を実施している。さらに、「電気・電子技術を使って環境問題の解決や社会に貢献できる技術者の養成」をもう一つの目標とする。具体的には、教育目標に沿って以下のように教育課程を編成する。

- (1) 低学年では、電気・電子工学に関する基礎理論を、演習を重ねながら身につけさせるよう、授業科目を編成する。
- (2) 高学年では、4つの分野「エレクトロニクス」「エネルギー」「ナノテク・新素材」「光・情報・通信」の専門知識を段階的に身につけさせるよう、バランス良く授業科目を編成する。
- (3) 低学年から高学年まで実験・実習を配置する。また、全ての学習の総まとめである卒業研究を配置する。これらを通じて、電気・電子工学分野の計測・試験方法の基礎、問題解決能力や創造力を身につけさせるよう、授業科目を編成する。
- (4) 低学年から高学年まで、環境問題の基礎知識や電気・電子工学と環境問題の関わりを考える授業科目を編成する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ）

<https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/>

（概要）

幅広い工学的知識・技術を身につけ、豊かな人間性を備えた技術者の養成を行うことを使命

とする。産業のグローバル化に対応して、国際的視野や国際コミュニケーション力をもち、課題を発見し解決できる創造的技術者の育成を目指す。

このような方針に基づき、次のような人の入学を期待する。

- (1) 技術者や理工系の研究者になるという強い意志を持ち、社会の発展に貢献したい人
- (2) 工学を学ぶために必要な基礎学力を持ち、自ら進んで学習できる人
- (3) 科学技術の分野に関心を持ち、自ら工夫して新しいものを創造する意欲のある人
- (4) 倫理観や協調性を持ち、多様な個性や価値観を尊重できる人

学部等名 電子制御工学科

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ）

<https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/>

（概要）

- (1) 社会（伝統・文化・環境等）の発展に貢献できる、豊かな人間性を備えた技術者の育成
- (2) 幅広い工学的知識を基礎に、実践能力を備えた技術者の育成
- (3) コミュニケーション能力を備えた国際的に活躍できる技術者の育成
- (4) 自主的・継続的に学習し、課題解決能力を備えた技術者の育成

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ）

<https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/>

（概要）

電子制御工学科では、機械工学、電気電子工学、情報工学、計測制御工学の4つの専門分野を中心に、そして、各専門分野間の相互関係を「つながり」として各専門知識を理解し、自然にそれらの知識を組み立てる技術を総合的に身につけた実践的技術者の育成を目的として、所定の単位を修得し、以下のような能力を身につけた学生に卒業を認定します。

- (1) 機械工学、電気電子工学、情報工学、計測制御工学の知識、技術を総合的に身につけ、それらを応用したものづくりができる。
- (2) 課題発見能力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を持ち、他者と協働できる。
- (3) 豊かな教養と倫理観を身につけ、社会に貢献できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ）

<https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/>

（概要）

電子制御工学科では、機械工学、電気電子工学、情報工学、計測制御工学の知識、技術を総合的に学習し、ものづくり、創造的な技術開発ができる技術者を育成します。具体的には、教育目標に沿って以下のように教育課程を編成します。

- (1) 低学年では、一般教養科目である数学、物理などの理系科目、国語、英語などの文系科目を多く配置し、高学年に進むに従い機械工学、電気電子工学、情報工学、計測制御工学に関する専門科目が多くなるくさび形に授業科目を編成します。
- (2) 機械工学、電気電子工学、情報工学、計測制御工学の4つの専門分野にわたる幅広い技術が身につくように実験・実習・演習を編成します。
- (3) 社会に貢献できる総合的な能力を育成するために、課題解決能力、各専門分野を融合した新しい技術を作り出す能力、プロジェクトマネジメント能力、チームワーク力が身につくよう課題解決型実験・システム設計・卒業研究を編成します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ）

<https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/>

<p>(概要)</p> <p>幅広い工学的知識・技術を身につけ、豊かな人間性を備えた技術者の養成を行うことを使命とする。産業のグローバル化に対応して、国際的視野や国際コミュニケーション力をもち、課題を発見し解決できる創造的技術者の育成を目指す。</p> <p>このような方針に基づき、次のような人の入学を期待する。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 技術者や理工系の研究者になるという強い意志を持ち、社会の発展に貢献したい人 (2) 工学を学ぶために必要な基礎学力を持ち、自ら進んで学習できる人 (3) 科学技術の分野に関心を持ち、自ら工夫して新しいものを創造する意欲のある人 (4) 倫理観や協調性を持ち、多様な個性や価値観を尊重できる人
--

<p>学部等名 情報工学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ）</p> <p>https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/</p>
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 社会（伝統・文化・環境等）の発展に貢献できる、豊かな人間性を備えた技術者の育成 (2) 幅広い工学的知識を基礎に、実践能力を備えた技術者の育成 (3) コミュニケーション能力を備えた国際的に活躍できる技術者の育成 (4) 自主的・継続的に学習し、課題解決能力を備えた技術者の育成
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ）</p> <p>https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/</p>
<p>(概要)</p> <p>情報工学科では、所定の単位を修得して以下のような能力を身につけた学生に卒業を認定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) システム開発に必要な基礎的な情報工学、情報ネットワーク、情報セキュリティの知識・技術を身につけ、それらを応用したシステム開発・運用ができる。 (2) 課題発見能力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を持ち、他者と良好なコミュニケーション関係を保ちながら協働できる。 (3) 豊かな教養と倫理観を身につけ、世の中の様々な諸問題を情報工学的手法や技術で解決できる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ）</p> <p>https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/</p>
<p>(概要)</p> <p>情報工学科では、コミュニケーション、コンピュータ、ネットワーク、ソリューションの4つの能力を備えるITエンジニアを育成します。具体的には、教育目標に沿って以下のように教育課程を編成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 情報システム、システムインテグレータ、ネットワーク通信システムなどの情報工学分野にわたる幅広い知識と技術、応用力が身につくようにバランス良く授業科目を編成します。 (2) 低学年では、国語、数学、物理、英語、社会などの一般教養科目を多く配置するとともに、高学年に進むに従いハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、情報セキュリティなどの情報系専門科目が多くなるくさび形に授業科目を編成します。 (3) 新しい技術を作り出し、社会に貢献できる能力を育成するために、座学で学んだ知識をベースとした実験・実習・卒業研究を系統的に編成します。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ）</p> <p>https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/</p>

<p>(概要)</p> <p>幅広い工学的知識・技術を身につけ、豊かな人間性を備えた技術者の養成を行うことを使命とする。産業のグローバル化に対応して、国際的視野や国際コミュニケーション力をもち、課題を発見し解決できる創造的技術者の育成を目指す。</p> <p>このような方針に基づき、次のような人の入学を期待する。</p> <p>(1) 技術者や理工系の研究者になるという強い意志を持ち、社会の発展に貢献したい人</p> <p>(2) 工学を学ぶために必要な基礎学力を持ち、自ら進んで学習できる人</p> <p>(3) 科学技術の分野に関心を持ち、自ら工夫して新しいものを創造する意欲のある人</p> <p>(4) 倫理観や協調性を持ち、多様な個性や価値観を尊重できる人</p>

学部等名 物質化学工学科
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ）</p> <p>https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/</p>
<p>(概要)</p> <p>(1) 社会（伝統・文化・環境等）の発展に貢献できる、豊かな人間性を備えた技術者の育成</p> <p>(2) 幅広い工学的知識を基礎に、実践能力を備えた技術者の育成</p> <p>(3) コミュニケーション能力を備えた国際的に活躍できる技術者の育成</p> <p>(4) 自主的・継続的に学習し、課題解決能力を備えた技術者の育成</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ）</p> <p>https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/</p>
<p>(概要)</p> <p>物質化学工学科では、所定の単位を修得して以下のような能力を身につけた学生に卒業を認定します。</p> <p>(1) 分析化学、無機化学、有機化学、物理化学、生物化学、化学工学の知識や技術を身につけ、それらを応用した新しい科学技術を創出できる。</p> <p>(2) 幅広い視野から課題を発見し、他者と協働して問題解決へ取り組める能力を身につける。</p> <p>(3) 倫理観や協調性を持ち、それに従って行動することにより社会に貢献できる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ）</p> <p>https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/</p>
<p>(概要)</p> <p>物質化学工学科では、化学を基礎として、物質化学に関する広範な学術領域について総合的に学習します。修得した知識や技術を用いて、地球環境と調和した社会の実現に貢献しうる、幅広い視野をもった、創造の意欲あふれる技術者を育成します。具体的には、教育目標に沿って以下のように教育課程を編成します。</p> <p>(1) 低学年では、理科系一般教養科目（数学、物理、化学、生物など）および文科系一般教養科目（国語、英語など）を中心に配置します。また、高学年に進むに従い、専門科目（分析化学、無機化学、有機化学、物理化学、生物化学、化学工学およびそれらの応用科目）が多くなるくさび形に授業科目を編成します。</p> <p>(2) 専門基礎科目（分析化学、無機化学、有機化学、物理化学、生物化学、および化学工学）に加え、環境、エネルギー、バイオ、新材料およびこれらを融合したプロセスに関する知識と技術が身につくようにバランス良く授業科目を編成します。</p> <p>(3) 地球環境と調和した社会の持続的発展を実現するために必要な新しい科学技術を創出できる能力を育成するため、実験・実習および卒業研究を系統的に編成します。</p>

<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ） https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/</p>
<p>（概要） 幅広い工学的知識・技術を身につけ、豊かな人間性を備えた技術者の養成を行うことを使命とする。産業のグローバル化に対応して、国際的視野や国際コミュニケーション力をもち、課題を発見し解決できる創造的技術者の育成を目指す。 このような方針に基づき、次のような人の入学を期待する。 （１）技術者や理工系の研究者になるという強い意志を持ち、社会の発展に貢献したい人 （２）工学を学ぶために必要な基礎学力を持ち、自ら進んで学習できる人 （３）科学技術の分野に関心を持ち、自ら工夫して新しいものを創造する意欲のある人 （４）倫理観や協調性を持ち、多様な個性や価値観を尊重できる人</p>

<p>学部等名 システム創成工学専攻</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ） https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/</p>
<p>（概要） （１）豊かな人間性の育成 （２）工学基礎知識の習得 （３）コミュニケーション能力の育成 （４）新規システムを創成する意欲と能力の育成</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ） https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/</p>
<p>（概要） 専攻科の学習・教育目標を達成するために編成された教育課程が定める授業科目を履修し、所定の単位数を修得し、専攻科を修了したものは、以下の能力・知識・態度が身についていることをものとする。 （Ａ）豊かな人間性（Humanity） （Ａ-1） ・ 近隣に存在する古都奈良の豊富な歴史的文化遺産を通して伝統と文化の重要性を理解し、伝承された技術を通して技術の発展の重要性を理解できる。 ・ 芸術・文化などの学習を通じ、他者・他国の立場に立って、その価値観の違いを認めることができる。 （Ａ-2） ・ 人類の発展に係わる、社会問題や環境問題を地球的な視野で捉えることができる。 ・ 科学技術が自然や人間に及ぼす影響・効果を考慮でき、技術者としての社会的責任を理解することができる。 （Ｂ）工学の基礎知識（Foundation） （Ｂ-1） ・ 数学（微分積分、線形代数、確率統計、数値解析）と自然科学（物理、化学、生物）の知識や思考力により、工学的諸問題の解決に適用することができる。 （Ｂ-2） ・ 基礎工学（設計・システム、情報・論理、材料・バイオ、力学、社会技術）の知識を専門工学に応用することができる。 ・ 情報関連機器を駆使し、必要な情報の検索・収集やデータ解析をすることができる。 （Ｃ）コミュニケーション能力（Communication） （Ｃ-1） ・ 日本語による、論理的な記述力を身につけ、技術論文を書くとともに内容について発表・</p>

<p>討論することができる。</p> <p>(C-2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語で書かれた文献を読解し、情報収集できる。 英語を用いて技術報告書を書く基礎能力を有する。 英語を用いて口頭による発表および討論が行える基礎能力を有する。 <p>(D) 新規システムを創成する意欲と能力 (Challenge and Creation)</p> <p>(D-1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 機械工学、電気電子工学、情報工学のいずれかの専門分野に精通し、その分野の技術動向を把握することができる。 異なる技術分野（融合・複合）を積極的に学習し、新たなシステムの創成に取り組む意欲と能力を身につけることができる。 <p>(D-2)</p> <ul style="list-style-type: none"> システムの安全性、品質保証、環境負荷、経済性など実務上の問題を理解することができる。 与えられた課題について、解決するためのデザイン能力を身につけることができる。 自主的・継続的に問題解決に向けて学習することができる。 チームワークにより、定められた条件のもとで、課題を完成させることができる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ）</p> <p>https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/</p>
<p>(概要)</p> <p>(1) 工学の基礎としての、数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する科目を配置する。</p> <p>(2) 各専攻の専門分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力を身につける科目を配置する。</p> <p>(3) 日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける科目を配置する。</p> <p>(4) 自主的・継続的に学習する能力を身につける科目を配置する。</p> <p>(5) 地域に対する理解を深め、地域創生に貢献する意欲を涵養する科目を配置する。</p> <p>(6) 新規システムを開発する際に要求される、専門分野が異なるチームで仕事をし、与えられた制約の下で計画的に仕事を進める能力や、種々の技術を組み合わせても技術的な問題を解決する力を身につける科目を配置する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ）</p> <p>https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/</p>
<p>(概要)</p> <p>(1) 豊かな人間性を有する技術者になりたい人</p> <p>(2) 自らの専門分野を生かし、さらに応用する力を育みたい人</p> <p>(3) 技術を通して国際社会や地域に貢献したい人</p> <p>(4) 創造性を高め、新しいシステムをつくり出したい人</p>
<p>学部等名 物質創成工学専攻</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ）</p> <p>https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/</p>
<p>(概要)</p> <p>(1) 豊かな人間性の育成</p> <p>(2) 工学基礎知識の習得</p> <p>(3) コミュニケーション能力の育成</p> <p>(4) 新規システムを創成する意欲と能力の育成</p>

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ）

<https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/>

（概要）

専攻科の学習・教育目標を達成するために編成された教育課程が定める授業科目を履修し、所定の単位数を修得し、専攻科を修了したものは、以下の能力・知識・態度が身につけていることをものとする。

（A）豊かな人間性（Humanity）

（A-1）

- ・ 近隣に存在する古都奈良の豊富な歴史的文化遺産を通して伝統と文化の重要性を理解し、伝承された技術を通して技術の発展の重要性を理解できる。
- ・ 芸術・文化などの学習を通じ、他者・他国の立場に立って、その価値観の違いを認めることができる。

（A-2）

- ・ 人類の発展に係わる、社会問題や環境問題を地球的な視野で捉えることができる。
- ・ 科学技術が自然や人間に及ぼす影響・効果を考慮でき、技術者としての社会的責任を理解することができる。

（B）工学の基礎知識（Foundation）

（B-1）

- ・ 数学（微分積分、線形代数、確率統計、数値解析）と自然科学（物理、化学、生物）の知識や思考力により、工学的諸問題の解決に適用することができる。

（B-2）

- ・ 基礎工学（設計・システム、情報・論理、材料・バイオ、力学、社会技術）の知識を専門工学に応用することができる。
- ・ 情報関連機器を駆使し、必要な情報の検索・収集やデータ解析をすることができる。

（C）コミュニケーション能力（Communication）

（C-1）

- ・ 日本語による、論理的な記述力を身につけ、技術論文を書くとともに内容について発表・討論することができる。

（C-2）

- ・ 英語で書かれた文献を読解し、情報収集できる。
- ・ 英語を用いて技術報告書を書く基礎能力を有する。
- ・ 英語を用いて口頭による発表および討論が行える基礎能力を有する。

（D）先端研究を通じた新しい物質・材料の創出とその生産手法へのアプローチ（Challenge and Creation）

（D-1）基礎研究

- ・ 環境、エネルギー、バイオ、新材料およびこれらを融合したプロセスに関する専門分野に精通し、その分野の技術・研究動向を把握することができる。
- ・ 専門知識を基軸とした幅広い視野から問題解決へ取り組める能力を身につける。

（D-2）応用研究

- ・ 人類社会の持続的発展を実現するために、基礎研究により培った技術・研究を応用し、新しい科学技術を創出することができる。
- ・ 専門知識を生かして地球環境と調和した豊かな社会の構築に貢献し得る優れた技術・研究能力を身につける。
- ・ 多様化する国際社会で主体的に活躍できる技術・研究能力を身につける。

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ） https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/</p>
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> （１）工学の基礎としての、数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する科目を配置する。 （２）各専攻の専門分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力を身につける科目を配置する。 （３）日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける科目を配置する。 （４）自主的、継続的に学習する能力を身につける科目を配置する。 （５）地域に対する理解を深め、地域創生に貢献する意欲を涵養する科目を配置する。 （６）環境に優しい新材料やエネルギーシステム、あるいはバイオテクノロジーなど、地球環境と調和した社会の持続的発展を実現するために必要な新しい科学技術を創出する力と化学研究者・技術者としての確かな研究リテラシーおよび国際競争力を身につける科目を配置する。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ） https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/</p>
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> （１）豊かな人間性を有する技術者になりたい人 （２）自らの専門分野を生かし、さらに応用する力を育みたい人 （３）技術を通して国際社会や地域に貢献したい人 （４）環境、エネルギー、バイオ、新材料およびこれらを融合したプロセスに関してその課題発見と解決に貢献したい人

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法：https://www.nara-k.ac.jp/guide/history/</p>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	1 人	－					1 人
一般教科	－	6 人	9 人	4 人	3 人	1 人	23 人
機械工学科	－	5 人	3 人	人	1 人	2 人	11 人
電気工学科	－	3 人	5 人	1 人	1 人	人	10 人
電子制御工学科	－	5 人	4 人	人	1 人	人	10 人
情報工学科	－	4 人	3 人	2 人	1 人	人	10 人
物質化学工学科	－	5 人	6 人	1 人	1 人	1 人	14 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
人		19 人					19 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：刊行物及びホームページ 「学校概要」 https://www.nara-k.ac.jp/guide/cat273/ 「研究シーズ集」 https://www.nara-k.ac.jp/seeds/book.html					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
機械工学科	40 人	42 人	105.0%	200 人	202 人	101.0%	若干名	1 人
電気工学科	40 人	40 人	100.0%	200 人	207 人	103.5%	若干名	0 人
電子制御工学科	40 人	41 人	102.0%	200 人	198 人	99.0%	若干名	0 人
情報工学科	40 人	41 人	102.0%	200 人	205 人	102.5%	若干名	3 人
物質化学工学科	40 人	41 人	102.0%	200 人	201 人	100.5%	若干名	1 人
合計	200 人	205 人	102.0%	1,000 人	1,013 人	101.3%	若干名	3 人
システム創成 工学専攻	24 人	38 人	158.0%	48 人	67 人	139.6%	—	—
物質創成 工学専攻	6 人	7 人	116.0%	12 人	17 人	141.7%	—	—
合計	30 人	45 人	116.0%	60 人	84 人	141.7%	—	—

(備考)				
b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
機械工学科	37 人 (100%)	20 人 (54.1%)	16 人 (43.2%)	1 人 (2.7%)
電気工学科	39 人 (100%)	26 人 (66.7%)	11 人 (28.2%)	2 人 (5.1%)
電子制御 工学科	36 人 (100%)	20 人 (55.6%)	15 人 (41.7%)	1 人 (2.8%)
情報工学科	38 人 (100%)	23 人 (60.5%)	14 人 (36.8%)	1 人 (2.6%)
物質化学 工学科	37 人 (100%)	20 人 (54.1%)	17 人 (45.9%)	0 人 (0%)
システム創成工 学専攻	29 人 (100%)	20 人 (69.0%)	8 人 (27.6%)	1 人 (3.4%)
物質創成 工学専攻	9 人 (100%)	7 人 (77.8%)	2 人 (22.2%)	0 人 (0%)
合計	225 人 (100%)	136 人 (60.4%)	83 人 (36.9%)	6 人 (2.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) (本科) 奈良高専専攻科、長岡技術科学大学、大阪大学、金沢大学、京都工芸繊維大学、豊橋技術科学大学、筑波大学、東京工業大学、三重大学、福井大学、名古屋工業大学、香川大学、徳島大学、奈良女子大学、東京農工大学、和歌山大学、岡山大学、広島大学、山口大学、電気通信大学、高知大学 (株)SUBARU、(独)国立印刷局、東海旅客鉄道(株)、川重車両テクノ(株)、コニカミノルタジャパン(株)、森永乳業(株)、東京地下鉄(株)、ダイキン工業(株)、旭化成(株)、大阪ガス(株)、雪印メグミルク(株)、日鉄住金レールウェイテクノス(株)、牛乳石鹼共進社(株)、パナソニック(株)、ヤンマー(株)、ダイキン工業(株)、島津プレジジョンテクノロジー(株)、ANA ベースメンテナナンステクニクス(株)、西日本高速道路(株)、味覚糖(株)、関西電力(株)、キヤノンメディカルシステムズ(株)、電源開発(株)、オムロン(株)、(株)椿本チエイン、(株)USEN-NEXT HOLDINGS、(株)社クボタ、(株)呉竹、(株)富士通エフサス、大阪ガス(株)、eBASE(株)、シャープ(株)、新明和工業(株)江崎グリコ(株)、(株)NTTデータSBC、(株)エヌ・ティ・ティネオメイト、(株)NTTフィールドテクノ、サントリーホールディングス(株)、花王(株)、理研ビタミン(株)、三井化学(株)、マルホ(株)、シオノギ分析センター(株)、京セラ(株)、月桂冠(株)、第一三共プロファーマ(株)、花王(株)、ケンコーマヨネーズ(株)、(株)ミライト・テクノロジー (専攻科) 奈良先端科学技術大学院大学、大阪大学大学院、京都工芸繊維大学大学院、東北大学大学院、東京工業大学大学院、筑波大学大学院、千葉大学大学院、東京大学大学院、京都大学大学院、岡山大学大学院 クオリカプス(株)、追手門学院小学校(教員)、サントリーホールディングス(株)、富士通エフサスシステムズ(株)、ゾーホージャパン(株)、ハイウェイ・トール・システム(株)、三菱ガス化学(株)、オリエント化学工業(株)、(株)eBASE				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>学則別表の教育課程表により履修科目全体を呈示し、web シラバス上では、評価、到達目標のほか、具体的な「授業の進め方と授業内容・方法」を記載している。</p> <p>また、シラバスには、年間を通して授業計画を週毎に授業内容・方法を記入している。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>本科においては、学則第 12 条及び昭和 46 年度に制定された『学業成績評価、進級及び卒業の認定に関する規則』を公表、『学業成績評価、進級及び卒業の認定に関する申合せ事項』を制定し、順次状況にあった改訂を加えている。</p> <p>本科においては、次に該当する者は、原則として進級又は卒業を認めない。</p> <p>(1) 不合格の科目がある者</p> <p>(2) 学年成績の総平均点が 60 点未満の者</p> <p>(3) 欠席日数が年間授業日数の 3 分の 1 を超える者</p> <p>(4) 特別教育活動の履習状況が著しく悪い者</p> <p>ただし、不合格科目の全てが不可 (A) (59～40 点) であり、かつ、その累積が 5 科目 10 単位以内である場合、本科第 4 学年にあっては進級を認め、第 5 学年にあっては卒業を追認定するための再試験の実施を認めることができる。</p> <p>専攻科においては、学則第 37、38 条及び『奈良工業高等専門学校専攻科履修規程』を公表し、修了認定の条件を定めている。</p> <p>専攻科に 2 年以上在学し所定の授業科目を履修し、62 単位以上を修得することとし教養専門基礎科目修得単位数 計 20 単位 以上、専門科目修得単位数 計 42 単位 以上としている。</p>

学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	機械工学科	167 単位	有・ <input checked="" type="radio"/>	単位
	電気工学科	167 単位	有・ <input checked="" type="radio"/>	単位
	電子制御工学科	167 単位	有・ <input checked="" type="radio"/>	単位
	情報工学科	167 単位	有・ <input checked="" type="radio"/>	単位
	物質化学工学科	167 単位	有・ <input checked="" type="radio"/>	単位

	システム創成工学専攻	62 単位	有・ <input checked="" type="radio"/>	単位
	物質創成工学専攻	62 単位	有・ <input checked="" type="radio"/>	単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.nara-k.ac.jp/guide/2019gaiyou46-47.pdf>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
	機械工学科	234,600 円	84,600 円	101,250 円 ～71,250 円	その他の内訳 スポーツ振興センター共済掛金 1,550 円 行事等積立金 10,000 円 後援会費 9,000 円（半期） 学生会費 3,400 円（半期） 寄宿料（寮生のみ）4,800 円（半期） 寮生会費 2,500 円（半期） 教科書代 40,000～70,000 円
	電気工学科				
	電子制御工学科				
	情報工学科				
	物質化学工学科				
	システム創成 工学専攻			30,550 円	スポーツ振興センター共済掛金 1,550 円 学外研修等積立金（半期）10,000 円 後援会費 9,000 円（半期） 教科書代 10,000 円程度
	物質創成工学専攻				

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>（概要）</p> <p>学級担任制をとり、学級担任の他に 1 年には学年主任を置き、随時、修学に関する相談が可能な体制としている。また、図書館、保健室、学生支援センター（学生相談）を設置し、教員全員によるオフィスアワー、自学自習のための施設の開放等、学生の学習支援に関する企画・検討ができる体制を整えている。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>（概要）</p> <p>本校の進路指導は、年度当初の進路対策協議会で基本方針を協議し、各学科間の連絡調整を図りながら、原則として学科の主任と進路対策教員を中心として行われている。</p> <p>全学的には進路ガイダンス、保護者懇談会等を複数回開催し、当該学級担任と調整、相談しながら、随時、進路指導が可能な体制をとっている。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

保健室、学生支援センター（学生相談）を置き、支援センターには学生支援センター長、学生相談担当副センター長、人権教育推進・障害学生支援担当副センター長、専任相談員（特任教授）、特別相談員（本校 OB 教員）各学科から選出された相談員、スクールソーシャルワーカー1名、心理カウンセラー4名、看護師3名が配置され、連携して学生の心身の健康相談に対応する体制を整えている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：（公表方法：ホームページ）

<https://www.nara-k.ac.jp/guide/2012/06/post-267.html>